

令和2年度 経営協議会学外委員等からの意見と対応状況

○経営協議会学外委員からの意見と対応状況

番号	経営協議会	学外委員等からの意見	本学の対応状況
1	第87回 R2.6.18開催	論文の分析によって国内外の他大学と比較した強み弱みの補完関係がわかり、連携先の探索に繋がるのではないかと。また、時系列でのデータ分析により、技術のトレンドや、その組織がどの方向に動いているかということがわかるので、そのような分析方法も試されるとよい。データ分析は非常に重要なことなので、今後も積極的に取り組んでほしい。	時間軸の変化については、ご示唆いただいた後、重点的に分析を行っている。1年ごとにデータを並べていくと、世界的なトレンドとしてトピッククラスターがどこにあるかということと、その中でJAISTの強みはどこにあるかという2つの要素を重ねて見ることができるため、これは非常に有用であると感じている。研究者は、ある程度、直感でここが強い、ここを伸ばすべきだと思っているものだが、やはりデータとして可視化できるとその裏付けにもなるため、今後も重点的に取り組んでいきたい。
2	第87回 R2.6.18開催	国際研究ニュース発信サイト等への記事掲載による論文被引用数へのインパクトについて説明されていたが、自ら掲載するだけでなく、メディア戦略・ネットワーク戦略にも力を入れていくべき。	グローバルメディア戦略の一環として、Nature誌の令和3年3月18日号のアジア太平洋地域特集版並びに同年7月1日号のMaterial Science特集版にそれぞれ本学の研究成果に関する記事広告を掲載済みまたは掲載予定である。ネットワーク戦略としては、今年4月に新規加入した研究大学コンソーシアムが主催するEurekAlert!(American Association for the Advancement of Science(AAAS)が運営する科学技術ニュースサイト)担当部長とのミーティング等の機会を活用して進めているところである。

○産業界の有識者からの意見と対応状況

番号	産業界の有識者と学長との懇談会	アドバイザーからの意見	本学の対応状況
1	R1.12.18開催	Matching HUBにおいて、スタンプラリーの実施によって、通常は関心を示さないような学生がブースに訪れ、企業に対する理解を深めてもらうことができた。今後も、参加者が様々なブースを回る動機付けとなる仕組みを続けていきたい。	令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響のため開催自体が困難であったが、その中において感染症対策を徹底し、オンラインによる参加方法も取り入れ、これらについて内外に明示した結果、オンライン視聴も含め約1,150名もの参加者を集め、学生が企業に接する機会を増やすことができた。今後の開催においては、更に多くのブースを回る機会を増やす仕組み作りを進める。
2	R2.1.17開催	企業への留学生からの問い合わせは多いが、日本語が流暢ではない留学生が増えてきている。産業界として留学生に日本に長く残ってもらえるような環境づくりをしていくことも重要だが、大学においても日本語教育の充実を考えていきたい。	留学生への日本語教育として、日本語入門から科学技術やビジネス分野でのコミュニケーションのための日本語スキルの修得に至るまで、入門から発展の4段階8科目を提供している。また、能美市と連携して令和3年4月より「JAIST-能美市連携日本語講座」を実施し、通年体制で能美市国際交流協会スタッフ等が日本語を実践的に指導する日本語教室を本学キャンパス内で開講する。さらに、日本文化研修として、日本の文化・風習の理解を深めるためのイベントを実施している。